

# オピニオン

## アジアに賭ける中小企業

10

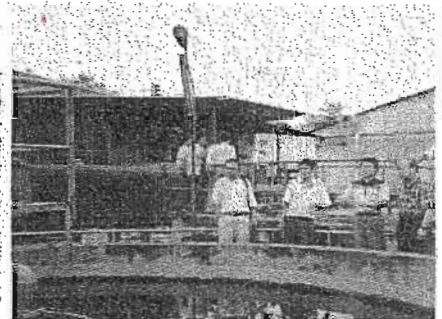
日本貿易振興機構  
(JETRO)  
上席主任調査研究員  
福良俊郎

大阪府堺市のサニコン(資本金8000万円、従業員125人)は、1970年に浄化槽の保守点検を目的とする会社として設立された。その後業容を拡大、現在は水から土壌、大気までカバーする総合コンサルティングサービスを提供する。08年にはホーチミンにサニコンベトナムを立ち上げ、水処理技術による地域貢献を目指している。サニコンとベトナムの縁は97年にさかのぼる。創立30周年を前にアジアでの国際貢献を考えた同社は対象国の検討を始めた。中国や韓国も候補となったが、既に多くの同業者が進出していたため、中小企業でも活躍の機会があると思われるベトナムを選んだ。外国の理解には人の交流が一番とのアドバイスを受けた同社はベトナムから2人の研修生を半年間受け入れた。一人はカントー県国際部長で、もう一人はホーチミン工科大学

### 水処理技術で地域貢献

#### サニコン(大阪府堺市)

付属水処理研究所技師だった。国際部長は誘致企業に排水処理義務を守るため、浄化槽保守など水処理の実務を研修した。当時ベトナムでは水処理の重要性が十分理解されていなかった。サニコンは98年10月、帰国した同部長の呼びかけに応え、カントー省で自治体幹部や人民委員会、企業関係者などを集めて浄化槽の勉強会を組織し水処理の理解を促進、ベトナムとの関係を深めていった。もう一人の研修生は研修後さらに日本での勉強を希望。サニコンの援助を受け大阪府立工科大学院博士課程を修了した。同技師は現在、08年10月設立のサニ



ベトナムでの浄化槽設置調査

コンベトナムの社長を務める。サニコンは09年3月、シエトロ大阪が関西経済連合会などと共催したベトナム投資セミナーにベトナムに参加した。既にベトナムに子会社があったが、自社の活動とは異なる観点から同国を見るとともに、工場見学や現地企業との商談など個社の努力だけではなかなか実現できないプログラムに魅力を感じたためである。実際、商談会ではいくつかの案件を発掘でき、需要の一端を実感した。

ベトナムで事業拡大を図る上でのサニコンの強みは企業活動の現地化と安価な施工力、日本の技術力活用にある。サニコンベトナムは社長以下全員ベトナム人だが日本語で技術情報を理解でき、設計以外の仕事はすべて任されている。09年8月には南部キエンジャン省で魚粉肥料工場の汚水処理設備を受注し11月完工した。

サニコンの業務は地域密着型であり、サニコンベトナムの事業もベトナムに特化する。中小企業は失敗すると後がないため、初めから援助関係の大きな仕事を狙うのではなく、小規模の工場や自治体などの仕事をコツコツと積み上げ、顧客と信頼関係を築いていく。